

北陸新幹線開業前後における観光行動分析 ～和倉温泉・七尾地域を対象として～

仕明 祐人¹・藤生 慎²・高山 純一³・中山 晶一朗⁴

¹学生会員 金沢大学大学院 自然科学研究科環境デザイン学専攻 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:mei091142@gmail.com

²正会員 金沢大学助教 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:fujiu@se.kanazawa-u.ac.jp

³フェロー 金沢大学教授 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:takayama@staff.kanazawa-u.ac.jp

⁴正会員 金沢大学教授 理工研究域環境デザイン学系 (〒920-1192 石川県金沢市角間町)
E-mail:nakayama@staff.kanazawa-u.ac.jp

2015年3月14日の北陸新幹線金沢開業に伴い、首都圏をはじめとした他地域の交流人口増加が期待される今、人気な観光名所・観光資源が数多く存在する北陸地域の観光促進は交通分野が取り組むべき重要な分野の一つである。そこで本研究では、北陸新幹線開業前後における観光促進の課題検討を一助するため、当該地域を訪れる観光客の動態調査を行い、旅行同伴者数や滞在期間、利用交通手段の変化を明らかにした。

Key Words : *tourism, Hokuriku shinkansen, questionair survey, Wakura onsen, Nanao city*

1. はじめに

北陸地域には、歴史的風情の漂う町並み（金沢・高岡）、名湯（宇奈月・和倉・加賀・芦原）、由緒ある寺院（瑞龍寺・那谷寺・永平寺・総持寺）、美しい山々（立山・五箇山・白山）、荒々しい海岸（東尋坊）、海産資源等といった豊かな観光名所・観光資源が多く存在しており、誘引力の高い観光地域である。加えて、白川郷や飛騨高山への容易なアクセスが可能であり、立地的利点もいくつか考えられる。

しかし、これらの観光地は旅行者に、単体で認識されていることが多く、北陸地域全体の広域観光が促進されていない。これらの観光地を「1つの観光地域」としてリンクさせ、旅行者の滞在時間の引き伸ばしや、更にはリピーターを確保することが観光振興を促進するためには必要不可欠であり、北陸新幹線開業に伴い当該地域への来訪者の増加が期待される今、新幹線を含めた交通手段の連携によって来訪者の広域観光を促進すること、即ち「広域観光連携」の推進が重要である。

そこで、本研究では新幹線開業による旅行者の行動範囲拡大・宿泊日数の増減・利用交通手段の変化を明確にすることを目的とし、和倉温泉宿泊者・七尾市内宿泊者

を対象にアンケート調査を行なった。更に、急増する自動車旅行の旅行動態を明らかにすることを目的に車両番号認識ソフトを用いて分析を行った。

2. 既存研究の整理と本研究の位置づけ

観光分野に関する研究では、観光消費や満足度、交通量に関する研究が多く存在する反面、旅行者意識・行動に則した地域連携、周遊観光に関する研究は少ない。そこで桑子¹⁾らは、周遊観光における広域地域の出入口数と観光行動の関係性に着目し、設定した複数のトリップパターンに含まれる観光施設の質を向上した場合の便益を明らかにした。また、森川²⁾らは、周遊観光交通の時間推移・滞在時間をモデル化し、旅行者の複雑な意思決定に則した行動をマイクロシミュレーションによって予測した。

以上の論文はほんの一例であるが、周遊観光分析において、新幹線開業前後における旅行意識に則した観光実態を明らかにした既存研究は存在しない。そこで本研究では、北陸地域を対象に、新幹線開業前後における観光動態・観光意識・満足度を調査し、旅行者の旅行同伴人

数や滞在期間、利用交通の実態を明らかにする。

3. 石川県及び和倉温泉の観光の現状

平成16年から平成25年における石川県と和倉温泉の観光客の推移を図-1³⁾に示した。いずれの観光客数も平成19年の能登半島地震の影響により大きく減少している。また、平成20年には東海北陸自動車道全線開通による観光客数が増加、平成22年には新規施設のオープン、ねんりんピック石川2010開催による観光客数の増加、平成23年には東日本大震災の影響による観光客数の減少、平成25年にはのと里山海道無料化、円安等の影響による観光客数が増加している。総括して、平成16年から平成25年までの10年間で、石川県を訪れる観光客数は暫定的に増加している。一方、和倉温泉を訪れる観光客数は伸び悩んでいる。したがって、増加傾向にある石川県来訪観光客の周遊観光促進によって和倉温泉への招致を図りたい。

次に、平成25年度和倉温泉月別観光客入込客数を図-2³⁾に示す。8月に観光客が最も多く訪れているが、8月以外の月では入込客数は伸び悩んでおり、特に1月、4月、7月では8月の半数ほどの入込客数となっている。したがって、8月以外の月の和倉温泉では旅行者収容数を持って余していることがわかる。

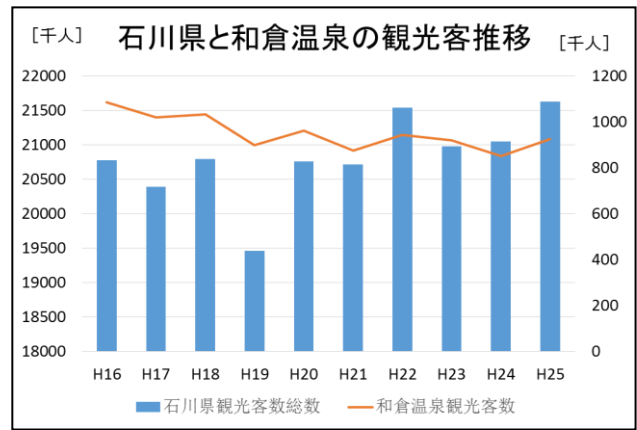


図-1 石川県と和倉温泉の観光客推移³⁾

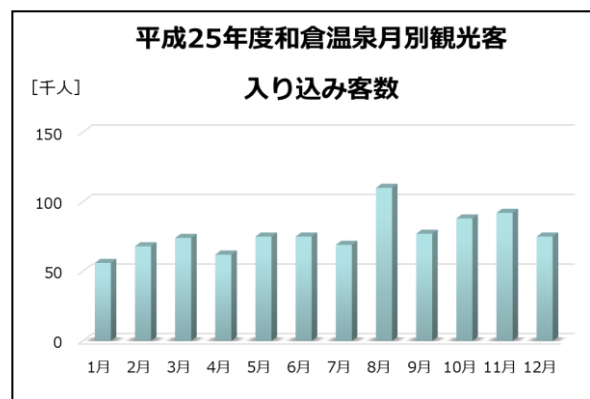


図-2 平成25年度和倉温泉月別観光客入込客数³⁾

4. アンケート調査の概要

アンケート調査の概要を表-1に示す。配布方法は温泉宿泊旅館・ホテルに委託し、おおよそ手配布で行った。調査は全て温泉宿泊旅館・ホテルの宿泊客を対象に無作為に配布し、後日郵送回収の形式で行った。

北陸新幹線開業前後調査は2種類のアンケートを用いて行った。一方は回収率向上を目的とした簡易版調査アンケートで、もう一方は旅行者の周遊行動を正確に分析できる詳細版調査アンケートである。アンケート調査の調査項目を表-2に示す。いずれの調査アンケートも回答者属性（居住地・性別・年齢・職業・旅行頻度・訪問回数・人数）と旅行形態（予算・滞在期間・訪問動機・交通手段）を調査し、詳細版調査アンケートでは追加で訪問地・訪問施設・訪問動機・参加イベント・リピート意識・満足度・ニーズを調査した。

表-1 アンケート調査の調査概要

	開業前調査	開業後調査(詳細版)	開業後調査(簡易版)
調査期間	2014年11月 ～2015年3月	2015年4月 ～2016年3月	2015年4月 ～2016年3月
配布場所	和倉温泉宿泊 七尾温泉宿泊	和倉温泉宿泊 七尾温泉宿泊 能登小牧台 能登島	和倉温泉宿泊 七尾温泉宿泊 能登小牧台 能登島
調査対象	旅館宿泊客	旅館宿泊客	旅館宿泊客
調査方法	手渡し配布 後日郵送回収	手渡し配布 後日郵送回収	手渡し配布 後日郵送回収
調査項目	1.回答者の属性 2.旅行形態	1.回答者の属性 2.旅行形態 3.旅行満足度 4.ニーズ	1.回答者の属性 2.旅行形態
配布枚数	2000枚	5000枚	10000枚

表-2 アンケート調査の調査項目

No.	調査項目	
	簡易版	詳細版
1	旅行目的	旅行目的
2	同伴者	同伴者
3	旅行人数	旅行人数
4	滞在期間	滞在期間
5	利用交通	利用交通
6	居住地	居住地
7	旅行頻度	旅行頻度
8	訪問回数	訪問回数
9	予算	予算
10	性別	性別
11	年齢	年齢
12	職業	職業
13	-	前泊地
14	-	後泊地
15	-	訪問地
16	-	訪問施設
17	-	食事
18	-	参加イベント
19	-	訪問動機
20	-	来訪済み観光地
21	-	観光季節意識調査
22	-	リピート意識
23	-	観光満足度
24	-	観光ニーズ

5. 集計結果の考察

開業前調査アンケートの配布枚数は2014年11月から2015年3月までで2000枚、回収枚数は1266枚、回収率は63.3%である。開業前調査は5ヶ月間という短い期間で行ったため、宿泊宿・ホテルに依頼し、とにかく回収に尽力して頂いた。結果、回収率は非常に高いものとなった。

開業後調査アンケートの配布枚数は2015年4月から2016年3月までで30500枚、回収枚数は1842枚（2月現在）である。開業後調査は本アンケート以外にも多数のアンケート配布依頼が旅館にあったため配布状況が悪く、低い回収枚数となった。

続いて、集計結果を考察した。

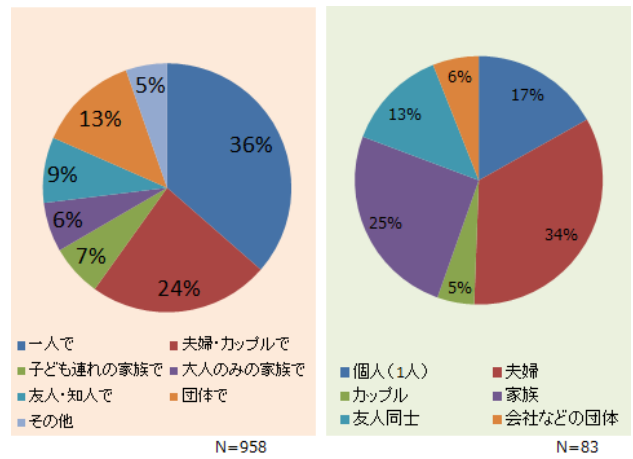


図-8 旅行同行者

旅行同行者についての回答集計結果は図-8に示す。北陸新幹線開業前後で比較すると個人（一人）旅行者が約36%から約17%へと大きく減少し、夫婦・カップル旅行者が約24%から約39%へと大きく増加した。また、家族旅行も約13%から約25%へと増加した。

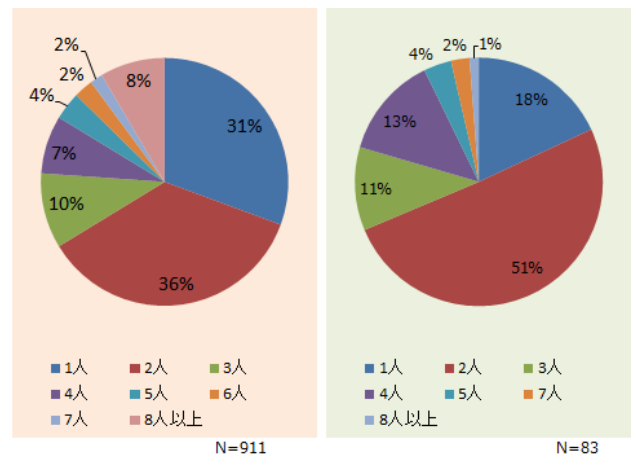


図-9 旅行人数

旅行人数についての回答集計結果は図-9に示す。旅行人数は、旅行同行者と同様、新幹線開業に伴い、1人旅行が約31%から約18%へと大きく減少し、2人旅行が約36%から約51%へと大きく増加した。

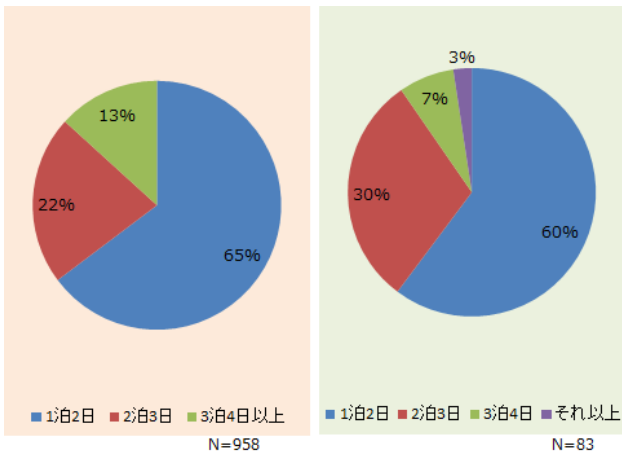


図-10 宿泊数

宿泊数についての回答集計結果は図-10に示す。宿泊数については、開業前後において大きな変化はなく、どちらの時期においても1泊2日の旅行が60%以上を占めている。

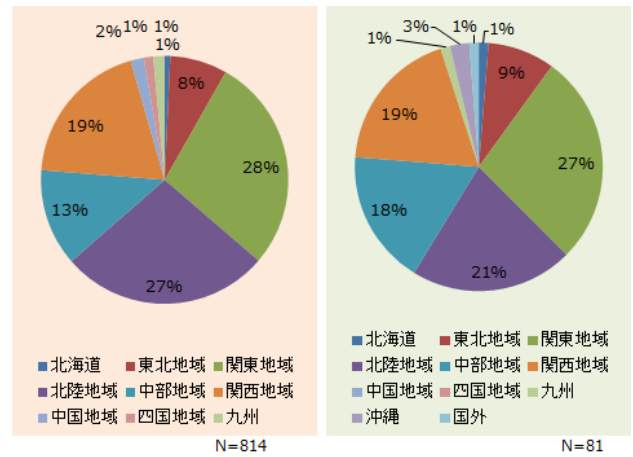


図-12 回答者居住区

旅行者の居住地についての回答集計結果は図-12に示す。旅行者の居住地分布は開業前後において大きな変化はなく、どちらの時期も「関東地域」「中部地域」「関西地域」からの旅行者が約7割を占めた。

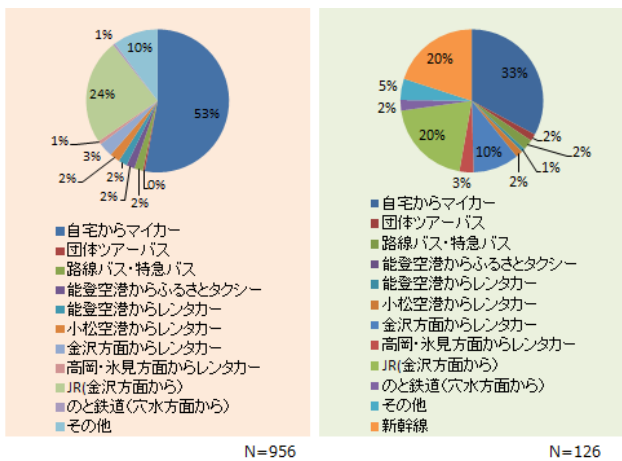


図-11 利用交通手段

利用交通手段についての回答集計結果は図-11に示す。開業前は半数以上を占めていた「自宅からマイカー」利用が、開業後には、約33%へと大きく減少した。また、レンタカーの利用が約7%から約16%へと約2倍に増加した。また、開業後において、新幹線の利用率は約20%を占めている。

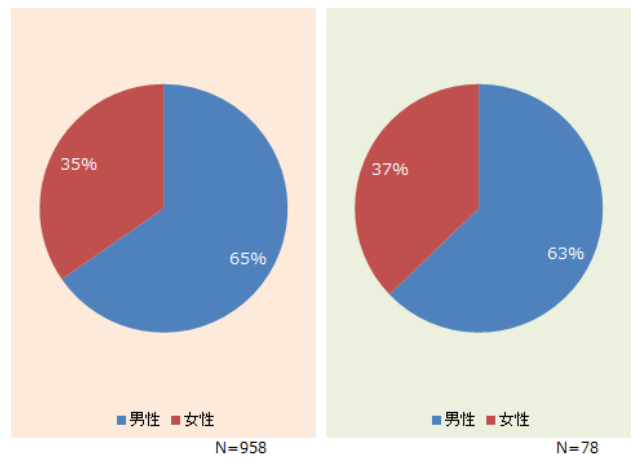


図-13 回答者の性別

回答者の性別割合を図-13に示す。回答者の性別割合は、開業前後において大きな変化はなく、男性が約65%で女性が約35%であり、男性の割合が大きくなった。

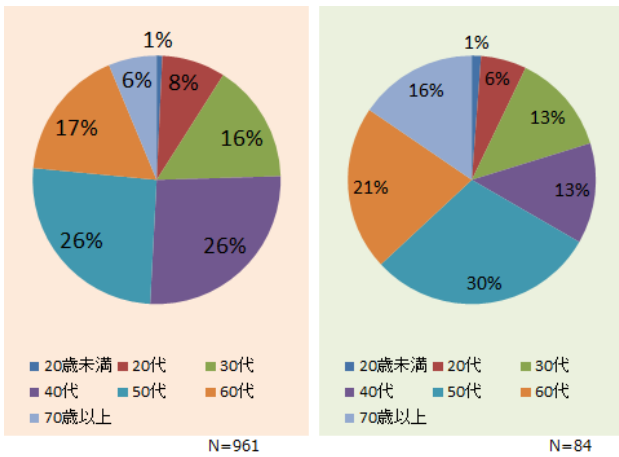


図-14 回答者の年齢

回答者の年齢割合についての集計結果は図-14に示す。開業前後において、回答者の年齢割合はやや高齢化した。

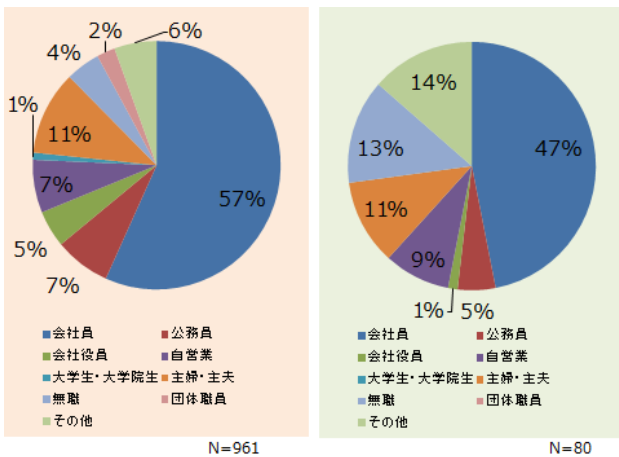


図-15 回答者の職業

回答者職業についての集計結果は図-15に示す。開業前後において大きな変化はなく、最多数が半数近くを占める会社員であった。また、無職の旅行者が約4%から約13%へと微増した。

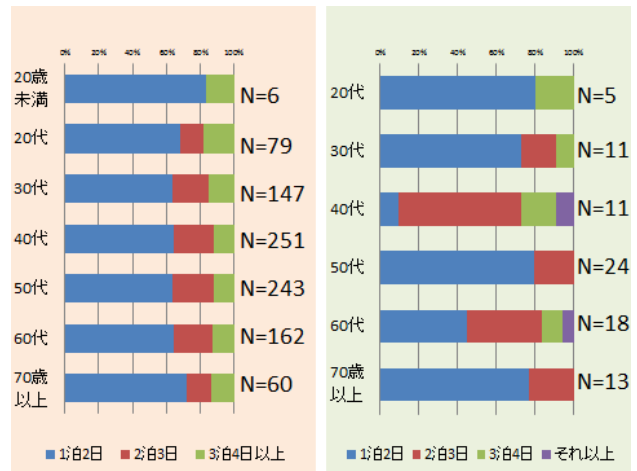


図-16 年齢×旅行日数

続いて、クロス集計結果について記す。

年齢別旅行日数の集計結果について図-16に示す。40代、及び60代旅行者の旅行日数が増加し、50代旅行者の旅行日数が減少した。

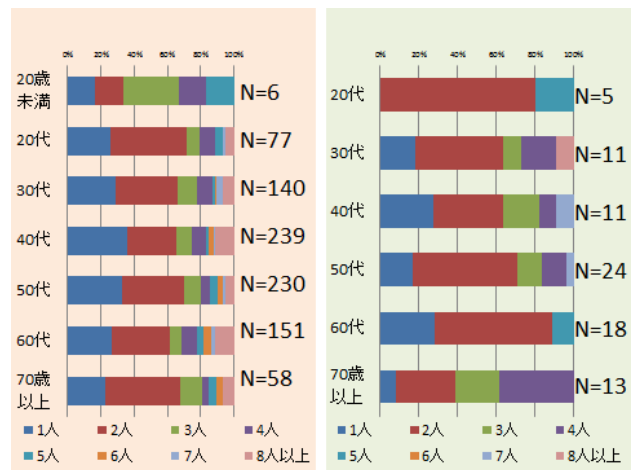


図-17 年齢×旅行人数

年齢別旅行人数の集計結果について図-17に示す。30代、50代、70代旅行者の同伴旅行人数が増加し、それ以外に変化はなかった。

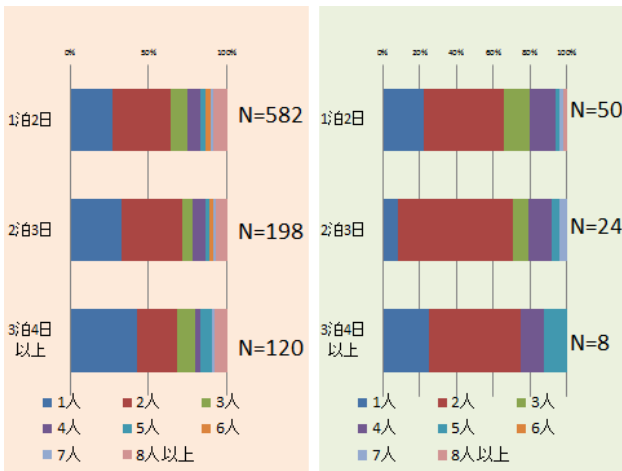


図-18 旅行日数×旅行人数

旅行日数別旅行人数について図-18に示す。全ての日数の旅行において同伴旅行人数が増加した。一方、8人以上の団体旅行者は全ての日数旅行にて減少した。

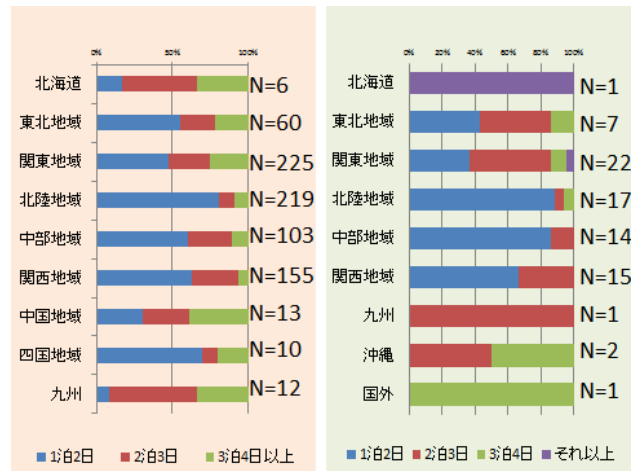


図-20 居住地×旅行日数

居住地別旅行日数について図-20に示す。関東地域からの旅行者の滞在期間は長くなり、中部地域からの旅行者の滞在期間は短くなった。一方、関西地域からの旅行者の滞在期間は開業前後で大きな変化はなかった。

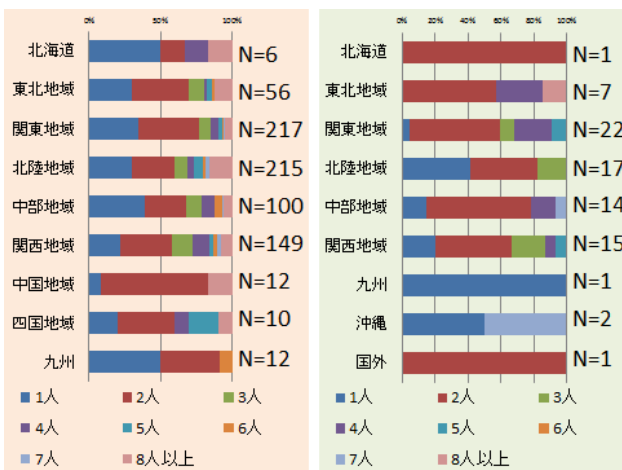


図-19 居住地×旅行人数

居住地別旅行人数について図-19に示す。関東地域からの旅行者について、1人旅行者が大きく減少し、2人旅行者、及び4人旅行者が増加した。中部地域からの旅行者について、1人旅行者が減少し、2人旅行者が大きく増加した。関西地域からの旅行者については開業前後で大きな変化はなかった。

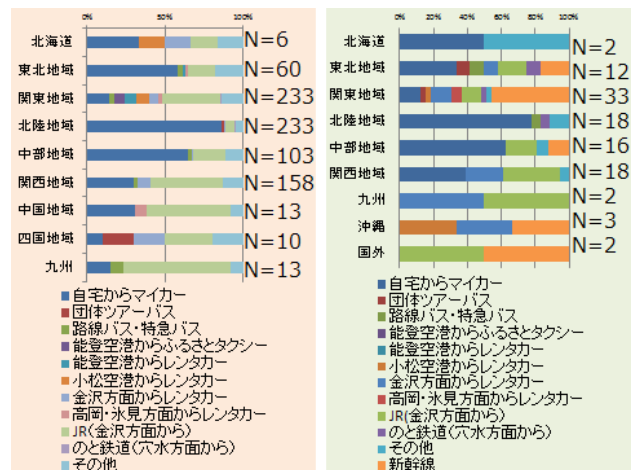


図-21 居住地×交通手段

居住地別利用交通手段について図-21に示す。開業後において、関東地域からの旅行者の約半数、中部地域からの旅行者の約1割が新幹線を利用している。関西地域からの旅行者については、レンタカー利用がやや増加し、JR利用がやや減少した。

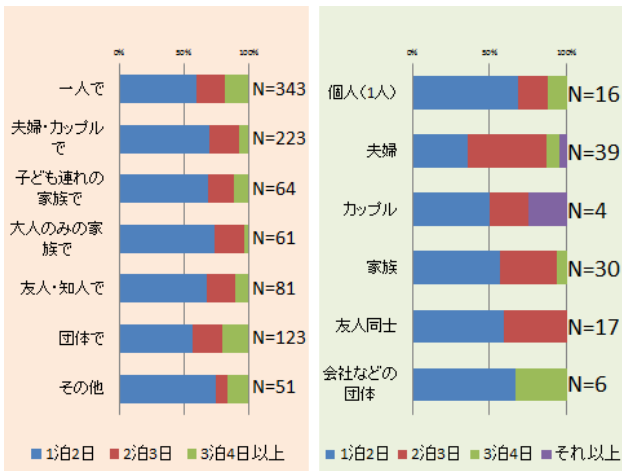


図-22 同伴者×旅行日数

同行者別旅行日数について、図-22に示す。夫婦・カップルでの旅行者の旅行日数が長くなった。

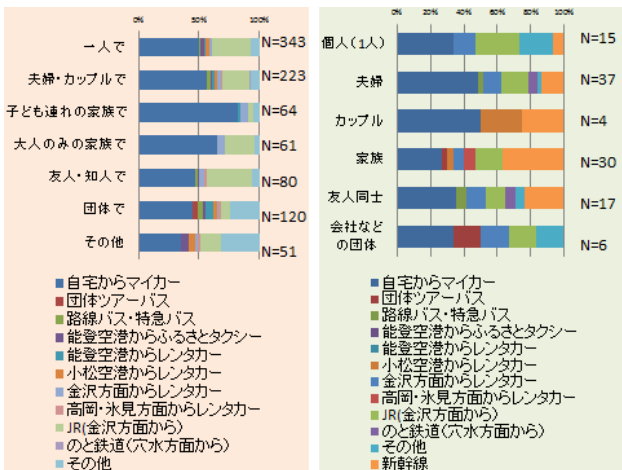


図-23 同伴者×交通手段

同伴者別交通手段について図-23に示す。開業後において、家族旅行の約4割が新幹線利用であった。

表-3 車両番号調査の概要

調査日時	2015年10月17日、18日、24日、25日 AM7:00~PM19:00
調査場所	国道271号線(サークルK能登空港インター店前)往復路 国道303号線(能登空港下)往復路 県道2号線(サークルK鹿島能登部店前)往復路 国道271号線(気多大社)往復路 国道415号線(神子原)往復路 国道249号線(サークルK今浜インター店前)往復路 国道159号線(JAガソリンスタンド前)往復路 穴水道路(穴水IC~能登空港IC間)往復路 のと里山海道(高松IC~県立看護大IC間)往復路 七尾氷見道路(七尾大泊IC~灘浦IC間)往復路 のとじま水族館 能登島ガラス工房 和倉温泉 食祭市場 巖門 気多大社 妙成寺 千枚田 キリコ会館 輪島の朝市 総持寺祖院 禄剛崎灯台 道の駅すずなり 見附島

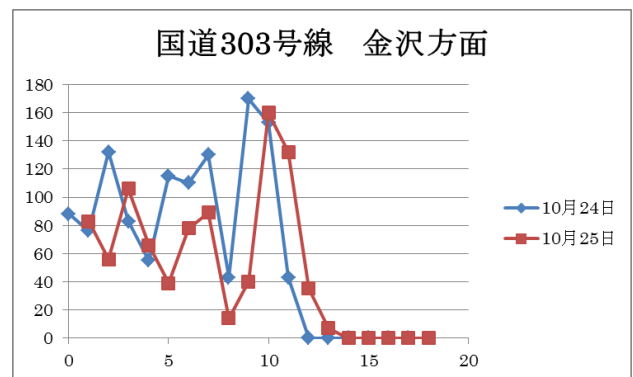


図-24 国道303号線金沢方面 経時間交通量

7. 車両番号調査の概要と考察

車両番号調査の調査概要を表-3に示す。調査時間は12時間を4日間でやり、観測場所は24地点で行った。

更に、能登半島を縦断する国道303号線、のと里山海道、七尾氷見道路における経時間交通量変化を図-24から図-28に示す。

図-27よりののと里山海道能登方面の午前中に交通量のピークが見られ、図-25より国道303号線能登方面の昼頃に交通量のピークが見られ、交通量の移動が見られた。

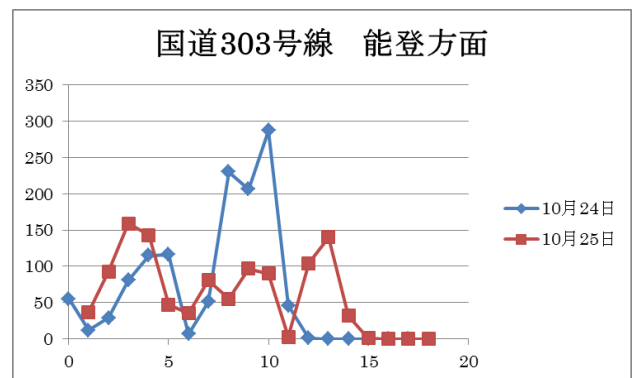


図-25 国道303号線能登方面 経時間交通量

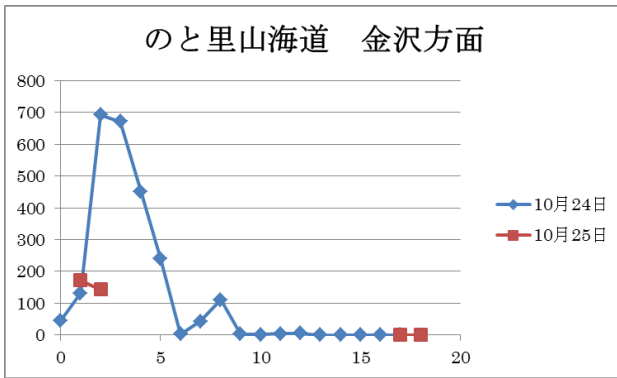


図-26 のと里山海道金沢方面 経時間交通量

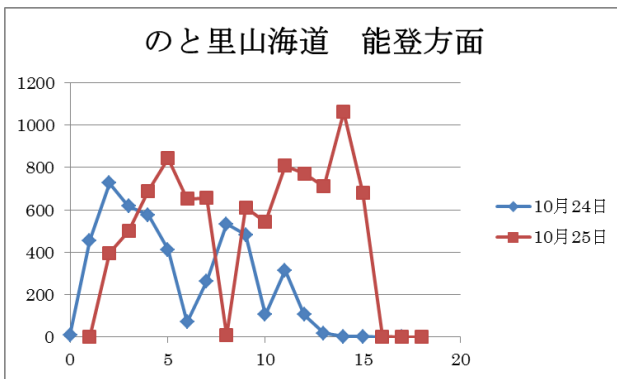


図-27 のと里山海道能登方面 経時間交通量

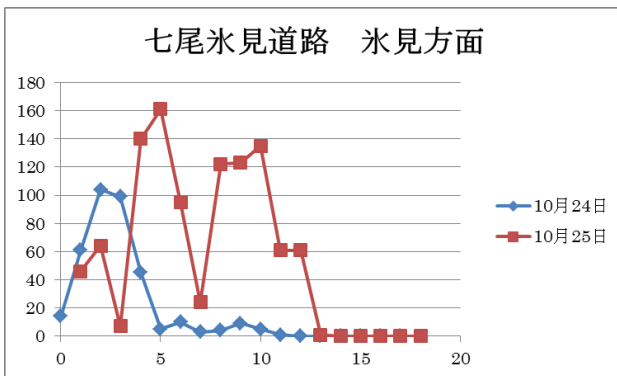


図-28 七尾氷見道路氷見方面 経時間交通量

6. 結論と今後の展望

本研究では、北陸新幹線開業により、観光客の行動形態がどのように変化するかを調査するため、開業前後の和倉温泉・七尾市内の入込客の行動形態を調査した。

開業後調査アンケートについては、詳細版と簡易版を用意し、詳細版は半年に5000枚を、簡易版は半年に10000枚を配布予定である。また、開業後調査からは対象地域を増やし、能登島及び能登小牧台を追加調査する。

今回の分析では、北陸新幹線開業前後における旅行者の観光動態の変化を明らかにした。新幹線開業によって夫婦・カップル、家族旅行が大きく増加したことや、1人旅行者が減少したこと、マイカー利用者が大きく減少しレンタカー利用が大きく増加したこと、高齢者の滞在期間がおおむね長期化したこと、8人以上の旅行団体の滞在期間が減少したこと、関東からの旅行者の一人旅行が減少し滞在期間が長期化したこと、関西からの旅行者のレンタカー利用が増加したこと、夫婦・カップル旅行者の滞在期間が増加したこと、家族旅行の約4割が新幹線利用であること等が明らかとなった。総括して、北陸新幹線開業は、当該地域旅行者の旅行同伴者の増加や滞在期間の長期化をもたらしており、観光促進に大きな助力をしていることが明らかとなった。また、当該地域の周遊観光はマイカーやレンタカー、タクシー等自動車利用が増加傾向にあり、観光地間の道路交通のアクセス向上が観光促進の一助となることが明らかになった。更に、車両番号調査にて金沢から能登半島を經由して氷見に入る交通流が明らかとなった。

今後は、2016年3月まで配布していたアンケートの集計を早急に完了し、和倉温泉・七尾市における季節ごとの観光形態分析を行っていく。更に、車両番号調査の認識を進め、地図上にて自動車旅行の可視化を行う。

参考文献

- 1) 桑子幹弘, 河野達仁, Iis P. Yussyadiah : 周遊観光における観光施設の質改善便益分析, 第 42 回土木計画学研究発表会・講演集, 2010
- 2) 森川高行, 佐々木邦明, 東力也 : 観光系道路網整備評価のための休日周遊行動モデル分析, 土木計画学研究・論文集 No.12, 1995
- 3) 青木拓也, 向井智哉, 久保田萌, 小池光右, 田口七生 : 七尾「和倉温泉」宿泊客の特性に基づく温泉まちづくりの提案, 金沢大学理工学域環境デザイン学類・環境デザイン演習取りまとめ資料, 2014